

第 1 回小千谷市総合教育会議 会議録

日 時	令和 5 年 11 月 13 日 (月) 15:00~16:10	会 場	市役所 大会議室
出席者	・宮崎市長 ・松井教育長 (教育委員) ・鈴木委員 ・竹内委員 ・吉井委員 ・高野委員 (6名)		
欠席者	なし (0名)		
事務局	(教育・保育課)・山本課長 ・林課長補佐 ・上村管理指導主事 ・小林管理指導主事 ・岩淵係長 (企画政策課)・岡元課長 ・増川課長補佐 ・佐藤係長 ・和田主査 (9名)		
傍聴者	なし		
議 題	(1) 人口減少に対する学校教育のあり方について (2) 小千谷市の学校教育について		

発 言 者	発 言 内 容
	1 開 会
宮 崎 市 長	2 あいさつ 本日は主に2つのテーマを取り上げる。1点目の「人口減少に対する学校教育のあり方について」では、小千谷市の将来を担う子どもたちから小千谷市に住み続けてもらうために、あるいはUターンで帰ってきてもらうために、学校教育をとおしてどのようなアプローチができるのか意見交換をさせていただきたいものである。2点目の「小千谷市の学校教育」については、委員から教育に対する思いをお聞かせいただき、あわせて私の教育に関する考えを共有させていただきたい。円滑な進行と活発な意見交換へのご協力をお願い申し上げます。
事 務 局	ここからは、本会議の議長である宮崎市長より進行をお願いしたい。
宮 崎 市 長	3 議 題 (1) 人口減少に対する学校教育のあり方について 議題(1)について、事務局より説明をお願いしたい。
事 務 局	市内学校で行っている「ふるさと教育」について説明
宮 崎 市 長	ただいまの説明について、教育委員の皆さん一人ずつ順番にお考えがあればお聞かせいただきたい。
竹 内 委 員	民間企業の立場で教育に関わらせていただいているが、人口減少、少子化が進んでいる中で、地元産業の人材確保に向けた枠組みが整備されているのはありがたい。 おぢやしごと未来塾は企業を知ってもらうためのファーストステップとして有意義なものであり、3年前から一企業として参加している。 また、自分の子どもが参加した際は、参加したことによって初めて小千谷市に様々な産業があることを知ることができたという感想を持っており、参加企業としても、親としても非常にいい取組だと感じている。

	<p>企業訪問については、仕事や企業の理念、考え方を知るきっかけになる。最後に、小千谷小学校で実施している創生劇は非常に素晴らしいもので、私は2回経験したが、両方とも本当に号泣するぐらい感動する内容だった。子どもたちが中心になって自分たちで考えて作り上げていくことはすごく大事なことだと思う。</p> <p>日本で最初の小学校であるという事実を子どもたちが自ら実感、学ぶ機会になって非常にいい取組だと感じている。</p>
吉井委員	<p>38年間、学校現場、小学校の教員として勤めてきた。</p> <p>小千谷市のほか長岡市や魚沼市などに勤めており、外からの視点ということを含めて大きく2点お話ししたい。</p> <p>1点目が、今ほど竹内委員からも意見のあった、おぢやしごと未来塾についてだが、産学官連携での取組は非常に珍しく、素晴らしい取組だと思う。昨年見学して改めてその素晴らしさを感じたところであるが、今年は高校生も参加するというので、非常にいいことだと思う。</p> <p>もしかしたら保護者も参加してみないと取組の良さがわからないのではないかと思うし、参加者を広げていくとより魅力的な事業になると思う。</p> <p>小千谷市の中で閉じるのではなく、近隣の市町村に広げてみることで新しいことに繋がる可能性も考えられる。</p> <p>2点目が、小学校におけるふるさと教育についてであるが、素晴らしい取組を各学校がやっている中で、教員や子どもたちがその取組の価値に気づくことができずもったいないと感じる。</p> <p>外部から評価してもらい機会があると「ふるさと小千谷」への気持ちが高まるのではないかと。</p>
高野委員	<p>ふるさと教育に関して、私自身も娘の活動を通して取組を知ったのが正直なところである。</p> <p>この地域はすごく好きだし素晴らしいところだと思う。また、子どもにもそう思ってもらいたいと願っている。</p> <p>大人たちが地元愛を持つと子どもたちにもその気持ちは伝わると思うが、大人はネガティブなところに目がいきがちである。</p> <p>大人がこの地域の良さに目が向くといいなと感じている。</p> <p>ふるさと教育に限らず、素晴らしい取組をインパクトのある形で発信できれば大人がこの地域を愛することに繋がり、さらに子どもたちにその気持ちが伝われば小千谷市に帰ってきてくれるのではないかと考える。</p>
鈴木委員	<p>小千谷市のふるさと教育は今に始まったことじゃなくて、長年成果をあげている。</p> <p>基本的におぢやっ子は小千谷市が大好きだと思う。例えば杉並区にある学生寮「小千谷寮」。今まで64年間の名簿を確認すると、最初の頃は小千谷市に戻ってくる学生が約2割～3割くらいで、それが5割に増えて、最近の子は7割～8割がUターンしてくれている。</p> <p>教育を通してふるさとを愛そう、大好きになろうという気持ちが伝わっているのだと思う。</p> <p>また、小千谷市に就きたい仕事が増えてきているのはいいことだと思う。</p>

	<p>一方で、小千谷市から出て行った子から小千谷市に帰ってきてもらおうという点では、おいしいものを送るなどもいい取組だが、地域外の人が小千谷市で子どもを育てたいと思う「教育の目玉」があるといいなと感じている。例えば、さいたま市では、小学校一年生から英語教育に力を入れており、小学校を卒業する頃にはある程度基本的な英会話ができるようになろうという教育に取り組んでおり、それが地域の目玉になっていて、わざわざ引っ越してくる人も多いと聞いている。</p> <p>英語に限らず、IT 教育など、小千谷市でしかできない、小千谷だったらできるという目玉が一つあると交流人口も増えていくのではないかな。</p>
松井教育長	<p>小千谷は自然が豊かだし人情が深いし文化もあるし、とてもいいところだと思う。</p> <p>空き家の活用などで、学校に行くのがナイーブな子が小千谷市のよさを体験できればいいなと思う。</p> <p>また、目玉になるような学校も必要なのかもしれない。</p> <p>おぢやしごと未来塾をやってみて一番強烈だったのが、未来塾をきっかけに西高に入って小千谷市内で就職した生徒が何人かいたことである。</p> <p>ふるさと教育など種をまいたものがこれから 10 年 20 年かけて実っていくが、それを待つだけでは遅いので何かもう一つ手立てが必要だと思う。</p>
宮崎市長	<p>皆様方からお話いただきましたが、私の所感をお話しさせていただく。</p> <p>竹内委員から地場産業の人手不足について考えをお聞きしたが、全国的に人手不足が問題となる中で、小千谷市では半導体関連企業による大規模投資とそれに伴う新規雇用の創出が明るい話題の一つとしてあがっている。</p> <p>仮に新規雇用の半分が小千谷市に住んだとしても、そのご家族を含めるとかなりの人数になるため、新規雇用の確保という点で、UI ターン施策を加速させたいと考えている。</p> <p>あわせて、教育と人材確保は切っても切り離せない関係にあるため、産業界と教育の場との連携を密にしたいと考えている。</p> <p>吉井委員からは、おぢやしごと未来塾への保護者の参加、近隣市町村の参加についてご意見をいただき、非常に面白い切り口かなと思う。</p> <p>他市に刺激を与えない形で連携を検討してみると面白いかもしれない。</p> <p>特に保護者の参加についてはすぐにでも何か取組ができると思う。</p> <p>また、ふるさと教育について、外からの評価がわからないというご意見があったが、おっしゃる通りである。</p> <p>教育もまちづくりの一環であるが、小千谷市民は小千谷市に対する誇りを失っているように感じる。</p> <p>外からの評価という部分で言うと、教育も産業も文化も、中から「すごいまちだ」と言ってもなかなか伝わりにくく、評価の逆輸入が有効であると考えている。外からの評価の発信、いわばミシュランのような評価が大事になってくるかなと思う。</p> <p>高野委員からは「大人のふるさと愛」についてお話しいただいたが、全くの同意見である。</p> <p>住んでいる人たちが「ここにいてもだめだよ」と言っていれば子どもは戻っ</p>

	<p>てこない。</p> <p>市民も企業も行政も意識転換をしていき、どれだけ市民の主体性を引き出すことができるかが重要である。</p> <p>小千谷市全体で、「子どもは少なくなるし若者はいなくなるし」と自分自身が子育てをしながら自分のまちを否定していたら子どもは帰ってこない。</p> <p>ここ 10 年 20 年くらいこのような負のスパイラルが続いていて、更にコロナ禍で加速度的に進んでおり、危機感を持っている。</p> <p>市民のマインドを変えていきたい。</p> <p>「おぢやつつみ」の事業もそうだが、UI ターンで帰ってきたくても帰ってこない理由は、収入と職種が一番大きいというアンケート結果が出ている。勉強した内容に見合った職種がない、収入が少ないという理由であるが、情報をダイレクトに伝えてマッチングをすることで、多様な職種があるということを知ってもらうことが重要だと考える。</p> <p>鈴木委員からは、地域外の人が小千谷で育てたいという目玉教育についてご意見をいただいたが、同じ思いだと感じるとともに、特徴のある学校をつくるのは大事な視点かなと思う。</p> <p>小千谷学生寮の学生が7～8割戻ってきていることは、素晴らしい。</p> <p>松井教育長との話とも重複するが、小中学校児童生徒数の推移を見ても、非常に厳しい数字が出ている。ポイントの数字だけ説明すると市内中学校の合計生徒数は令和5年度が883名で、それが令和17年度は512名になると見込まれており、12年間でそれだけの人数が減少することになる。学校別にすると更に厳しい数字が出ている。</p> <p>これに加えて令和4年度の出生数が約170名で、令和5年度は約140名になる見込みで、加速度的に少なくなっている。</p> <p>つまり将来的には140名×3学年で四百数十名。令和20年度近くには300人台になると思わないといけない。</p> <p>その辺も含めたうえで特徴ある学校づくりを検討する必要があり、また、よりUIターンしやすい環境を作る必要がある。</p> <p>以上、まずは皆さんからのご意見等に対する所感としてお話しした。</p>
松 井 教 育 長	<p>おぢやしごと未来塾を始めた時は、テレビや新聞等の報道各社から取材があり、また私が全国誌等でも紹介したことがある。</p> <p>そのように多くの反響があり、同じような事業をやりたいといって手法を説明した自治体もあった。</p> <p>実際にその自治体で実施されたかは不明だが、インパクトは大きかったと考えている。</p> <p>また、保護者の参加について、過去に保護者にも出ていただくために保護者全員に案内したこともあったがなかなか参加いただけなかった。</p> <p>ふるさと教育も保護者の関心が低かったのかなと思う。</p> <p>そういう意味で大人の意識が少し残念かなと思う。</p>
高 野 委 員	<p>例えばふるさと教育の授業を保護者参観に設定すると多くの人の目に留まると思う。</p>
松 井 教 育 長	<p>創生劇は市民会館でやるから比較的に見られていると思う。</p>

宮 崎 市 長	<p>(2) 小千谷市の学校教育について</p> <p>議題 (2) について、事務局より説明をお願いしたい。</p>
山 本 課 長	<p>宮崎市長の就任以降本会議の開催は初めてである。共通認識を持って教育行政を推進していくために、市長、教育長、教育委員それぞれの教育に対する考えや思いについて共有いただきたいものである。</p>
松 井 教 育 長	<p>今回のテーマ設定の経緯としては、教育委員から市長の教育に対する願いや思いを聞きたいという意見があったため設定したものである。最初に市長から是非熱い思いをお聞かせいただきたい。</p>
宮 崎 市 長	<p>ではまず私の方からお話しさせていただき、お時間があれば皆さんからもお話しいただければと思う。</p> <p>私の教育に対する思いは、いじめ問題、少子化、未来に対する生きる力、親育など多岐にわたる。</p> <p>まず、小千谷だけではなく全国的にいじめやひきこもり、不登校が増えているが、多様な価値観に対して画一的な教育でいいのかという問題提起もなされている中で、その子どもたちに合った教育環境を整えていく、特徴を生かしていくという視点が非常に重要だと思う。</p> <p>そのように子どもたちの個性を引き伸ばす教育環境を整える、特徴ある学校づくりも必要なのかもしれない。</p> <p>親育については、学校だけではなく、お母さんがお腹に子どもを宿してからのお話にしないといけない。</p> <p>子どもにどのように関わっていくのかは学校現場でも問題となっており、また保護者対応などが、大きな課題であり負担にもなっていることは承知している。</p> <p>地域が子育てに対する理解を含める、また親がご自身で子どもの特徴を把握することが重要だと考える。</p> <p>一説によると、一番他人からの意見が耳に入りやすいのは、子どもがお腹にやどったときだという。そういった意味では、妊娠・出産から始まる中長期的な施策も考える必要がある。</p> <p>また、保育現場では「預ければいい」という気持ちが強くなっている親が多いと感じる。子育てにおける大事なできごと、例えば、つかまり立ちやおむつが取れる時など、それらに対する喜びを感じながら子育てをする環境が整わず、子どもの些細な変化などをつかみ取れない親が増えているのではないかと感じる。</p> <p>女性活躍が謳われる社会の中で、保育園等に預けることで子どもに関わる時間が結果的に少なくなる。仕事などの都合により早期預かりをして延長保育をして土日も預けるといふ親もおり、子育てをちゃんとする必要がないというか、できない環境というのがあるように感じる。</p> <p>そういう意味で親育も非常に重要だと感じている。</p> <p>次に、子どもの未来を考えていくという点で、少子化にも関連するが、「おぢやつつみ」の事業は、すぐに小千谷に帰ってきてくれという趣旨で実施するものではない。</p> <p>子どもの未来、自己実現を応援する。あわせて小千谷の力になってほしいと</p>

いう思いを伝える事業で、親の心の代弁をする事業とも思っている。

親御さんは皆さん自分の子どもに一生懸命勉強していい大学に行って、いい会社に入って自分の夢を実現してほしいと考えていると思う。

大学進学でなくてもいいが、自分の思うことに挑戦して豊かな人生を歩んでもらいたいという気持ちを持つ一方で、いずれは同じまちで、同居でなくてもいいから近くに住んでいてほしいという気持ちも親の正直な気持ちであると受けとめている。

社会に出て、様々な仕事に就いて活躍して、いずれ小千谷でまた活躍する、もしくは住まなくても時々帰ってくる。あるいは、首都圏にいたとしてもふるさと納税や、昨今のデジタル社会の中で多様な関わり方が考えられる。そういった強固な関係人口を作っていくことが極めて重要になる。

さらに言えば、都会でないと自分の夢を実現できないと思う風潮がまだあり、これは日本の大きな課題だと思う。

地方にいても最先端ビジネスができる、事業を興していけるという種まきをするために、確立した教育だけでなく、地方から挑戦する風土を作っていきたい。

たとえ失敗したとしても、本気の失敗というものは大きな財産である。そういったところを伝えていけるような教育の場にしたいと思っている。

まちが、市民があきらめる。そういうことがあってはならない。

地方からでもイノベーションを起こすことができる。そう信じて、様々な事業をやっていきたいと思っているし、若い方々が少しずつ新潟に戻って、ことを起こしていこうという動きもある。

あとはやはり、生きる力を身につけるための教育をぜひお願いしたいと思う。

事務局からの説明にもあったが、グローバル化に対応できる資質や能力がこれにあたると思う。

世界中からこれだけの要人がこんな小さなまちに来ることはなかなかない。何十か国から要人が来て、また毎月各国の大使と顔合わせをし、そしてまち作りを語れるようなまちはない。

住んでいる私達がこのふるさとを誇りに思わない限り、若者に郷土愛を持ってというのは土台無理な話である。

そこはやはり親や地域の方の意識転換をしていく作業をしていく必要がある。それこそ価値観の、あるいは評価の逆輸入をやっていく必要があるのかなと感じる。

何よりも各世代、若者はもちろん働く世代、おじいちゃんおばあちゃんの主体性をどれだけ引き出すか。

教育に対しても主体性を引き出すことが大事だと思っている。

生きる力という意味では、子どものうちから「転ぶ」という経験は大事だと思う。長い人生、絶対失敗しないということはなく、私は「生きる力」とは「何度でも立ち上がる力」と考えを置いている。

つまり、何度でも立ち上がることは、やはり転んでみる。転んだときに自分で立ちあがるための支えとなること。そういった教育が大事なのでは

	<p>ないかなと思っている</p> <p>さらに深掘りすれば、「立ち上がる力」とは親の愛情だったり、地域の愛情だったり、学校の愛情だと思う。挫折した時に愛情が感じられるような教育現場を作り、子どもからは大いに転んでもらって、少し膝をすりむいて、そして立ち上がるといった、挑戦を称えるまちになると嬉しく思う。</p> <p>時間が来たので私からは以上とするが、委員から所感等あれば伺いたい。</p>
鈴木委員	<p>今市長さんから失敗してもめげずに立ち上がって何度でもやっていくたくましさを小千谷の子どもたちに身につけてほしいという話があったが、その点に対して、今の子どもたちは少しぬるま湯の中で教育されているかなという思いがある。子どもたちにストレスを与えないように、楽しく自由という風潮になってきている。</p> <p>スポーツの世界での競争はあるが、テストの順位で競争をするなど、そういったことはなくなっており、競争が少なくなっている。</p> <p>そういう意味では、今市長さんが言ったような、失敗から立ち直るたくましさを身につけるには、もう少し子どもたちに負荷を与えていくような教育も必要ではないかと思う。</p> <p>私は小千谷で育てられて、自分の子どもを育てて、それから教育委員に 20 年間置いてもらっている。</p> <p>学校教育の評価についてだが、私は教育の評価というのは、教育されている子どもたちを見たり、学校を見たりして下すものではなく、その教育を受けてきた子どもたちが作っていく社会を見て評価してもいいのではないかと思っている。</p> <p>その意味では、小千谷市の教育は、すごく温かくうまくいっているかなと感じる。</p> <p>最近では、欧米教育の自由や個性の尊重を評価し、そのような教育に変えていかなければならないという評論家もたくさんいるが、ありあまる自由を持って教育されていることの弊害もあるのではないかと思う。</p> <p>例えばアメリカを例にあげると、与えられた自由時間を自分でやりたいことに使っている人間の中から、例えばスティーブ・ジョブズのような秀でた人間も出てくるかもしれない。</p> <p>一方で、自由時間を持て余してしまっている大半の子どもたちは、どうしても遊びに流れるなど、社会が乱れてきてしまっている気がする。</p> <p>一例をあげると、私の友人がそうだが、ハリケーンが来るから退避しなさいという命令が出ても、怖くて家を離れられない。</p> <p>それはハリケーンによる被害を心配しているのではなく、自分たちが家を空けてしまうと、近所に住んでいる悪ガキが必ず自分の家に入り込んで、帰ってきたときに家中荒らされている。それが日常となっている。</p> <p>また、有名な教育評論家が、オランダの教育がとても良いなどと話していたが、実際に昨年小千谷市に来たオランダの方に話を伺うと、小千谷市は本当に居心地が良くて、安全で、女の子が夜外を一人で歩いても大丈夫なんだ、こんな世界があるんだと感動していた。自分たちがオランダの街中を夜散歩するとき、必ず護身用にポケットにナイフを入れており、それがオランダ</p>

	<p>ダで若者が出かけるときの常識になっている。</p> <p>また、イギリスから来た男の子が財布を2回なくして、2回ともちゃんと交番に届いていて、こんな社会が世界にあるんだとすごく感心していた。</p> <p>私はたしかに諦めないでもっとこうしたいという思いもあるが、全体的にはこの小千谷の教育がずっと続いて、このような社会を作っているという事実は大きな評価に値すると思う。</p>
吉井委員	<p>所感を二点述べたい。</p> <p>一つは、主に小中学校の、この小千谷市という規模、学校数の市ならではのことが、校外学習ということに対して、それを促すために市所有のバスを運行するような、そのような仕組みや財政的な支援があると学校は今まで通り、あるいは今まで以上に子どもたちに体験的な学習や実際にその場所を訪れる学習が進められるのではないかと感じる。</p> <p>児童数、生徒数が減っていくと、バスを借り上げるにしても一人あたりの負担が増えるということであり、保護者にこれ以上お願いできないということとでどんどん機会が減ってきている。</p> <p>小回りが利くフットワークの良さを生かして、そういうところは小千谷市がサポートすると先生方もお金を払わなくても動かしてもらえるのであれば、子どもたちをこういうところに連れていきたい、学習をデザインしてみたいという新しいやる気のようなものを感じられるのではないかと。</p> <p>もう一つは、強い子どもたちに育てるために、親元を離れて、ちょっと宿泊体験してみるような、そんな合宿のような民泊のような活動を仕掛けられると面白いと思う。私自身の夢でもある。</p>
松井教育長	<p>親の意識改革の方策が必要だと感じた。</p>
宮崎市長	<p>大人自身が小千谷のよさをしっかりと意識していき、小さいうちから小千谷市はすごいよという意識改革をしないといけないと思う。</p> <p>小千谷市の意識転換をしていく上で、市内の組織として一番大きな組織である小千谷市老人クラブ連合会にいろいろなお願いができればと考えている。3000人規模の超巨大組織であり、何を願うのかといえば、空き家の情報を出していただく、また地域の課題解決の力になっていただき、お子さんやお孫さんにUターンするように促していただくUターン運動など、そういったものをお願いしたいと考えている。</p> <p>子どもたちにとって大事なものは、自己効力感であり、どのように世の中の役に立てるのかだと感じている。</p> <p>都市部では、いい大学を出ても全体の一部でありなかなか競争の中で苦しみ、メンタル的に地方に戻りたいという人は一定数いると思う。</p> <p>スキルがあってもなくても、くたびれたから、嫌になったから、逃げるようにでもいいから是非とも小千谷に帰っておいでよとみんなで声掛けをする。100分の1の確率でまち作りは成り立つって言われ、つまり100人のうち1人アクションがあれば、それだけで地域は持続可能である。3000人規模の声掛けができれば大きな効果が生まれる可能性も考えられる。</p> <p>また、失敗から立ち直るといえるのは大変なことだが、挑戦することを評価するまちを目指したい。</p>

	<p>私自身が大事にしている言葉に、薩摩の教え「男の順序」がある。</p> <p>人間の順序として、1 番優れているのが「挑戦して成功する者」、2 番目が「挑戦して失敗する者」、3 番目が「挑戦する者を応援する者」、つまり、挑戦するのを一生懸命応援する人よりも失敗した人の方が評価は高いというわけです。4 番目は「何もしない者」、5 番目は「評論する者」。</p> <p>これは大切な視点だと思う。挑戦することを評価する教育も皆さんと一緒に考えていきたい。</p> <p>小千谷市の素晴らしいところは、利他の精神である。何百年と続き、他人を思いやって、幕末も中越地震も乗り越えている。それが一番の宝だと思う。小千谷市の誇りを伝える中で、挑戦できる子どもを育てる取組をみんなで進めたい。</p> <p>時間が過ぎてしまったため、ここで事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <p>12月8日（金）に「おぢやしごと未来塾」を開催する。今年で9回目の開催となり、これまでに多くの中学生から参加いただいている。今年は市内全中学校の1、2年生と、総合支援学校中学部の生徒に加え、市内二つの高校生からも企業ブース見学にご参加いただく。見学も可能なため、教育委員の皆さまから見学の希望があれば会場受付までお越しいただきたい。</p>
	<p>5 閉会</p> <p>（終了 16:10）</p>